

ニホンジカ被害低減に向けた 個体数調整方策

キーワード： ニホンジカ、生息分布、センサーカメラ

1 開発目的

ニホンジカによる被害を防止するため、ニホンジカの移動経路の把握や新たな捕獲手法、防除方法を確立する。

2 成果の概要

- ・ センサーカメラによるニホンジカの撮影頻度が東信森林管理署、東濃森林管理署、南木曾支署管内で高く、これまでの生息分布（目撃）が拡大している。（図 1）
- ・ 中央アルプスでは標高 2000m以上の地域で雌ジカが撮影された。
- ・ GPS 装着による行動把握により、中央アルプス周辺の個体は広域の季節移動は行わず、特定の流域に定着する傾向を把握した。（図 2）

管轄	カメラ設置台数	シカ撮影カメラ台数	割合
富山	15	3	20%
北信	6	0	0%
中信	33	15	45%
東信	13	12	92%
南信	50	33	66%
木曾	53	11	21%
ふれあいセンター	14	3	21%
南木曾	27	19	70%
飛騨	20	6	30%
岐阜	59	33	56%
東濃	15	13	87%
愛知	20		
合計	325	148	49%

図 1 地域別ニホンジカ撮影状況
「管轄」は森林管理署の管内

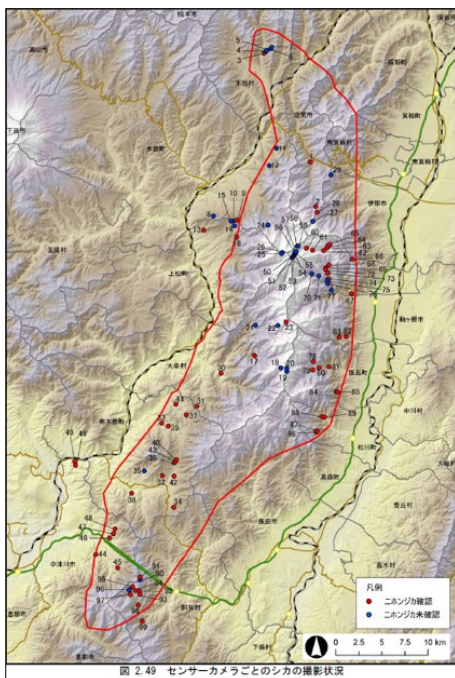


図 2 中央アルプス周辺に設置されたセンサーカメラによるシカの撮影状況

3 成果の詳細

- ・ 中部森林管理局管内に設置した 325 台（H28）のセンサーカメラの約 5 割でニホンジカが撮影された。（H29 は 420 台）
- ・ 撮影頻度が高い森林管理署（地域）は東信森林管理署（長野県東部）、東濃森林管理署（岐阜県南西部）、南木曾支署（長野県南西部）の管内で、これまでの生息分布（目撃）が拡大している。
- ・ 中央アルプスでは標高 2000m 以上の地域で雌ジカが撮影された。
- ・ GPS 装着による行動把握により、中央アルプス周辺の個体は広域の季節移動は行わず、特定の流域に定着する傾向を把握した。これにより、生息が確認された箇所でも重点的な捕獲が効果的と推察される。
- ・ 中部森林管理局では、ワナの貸出、委託捕獲及び猟友会との連携により、年間約 3500 頭（長野県内）のニホンジカを捕獲している。（図 3）
- ・ くくりわなを中心にセンサーカメラやGPSで行動を把握し、効率的にくくりわなを設定できることがわかった。

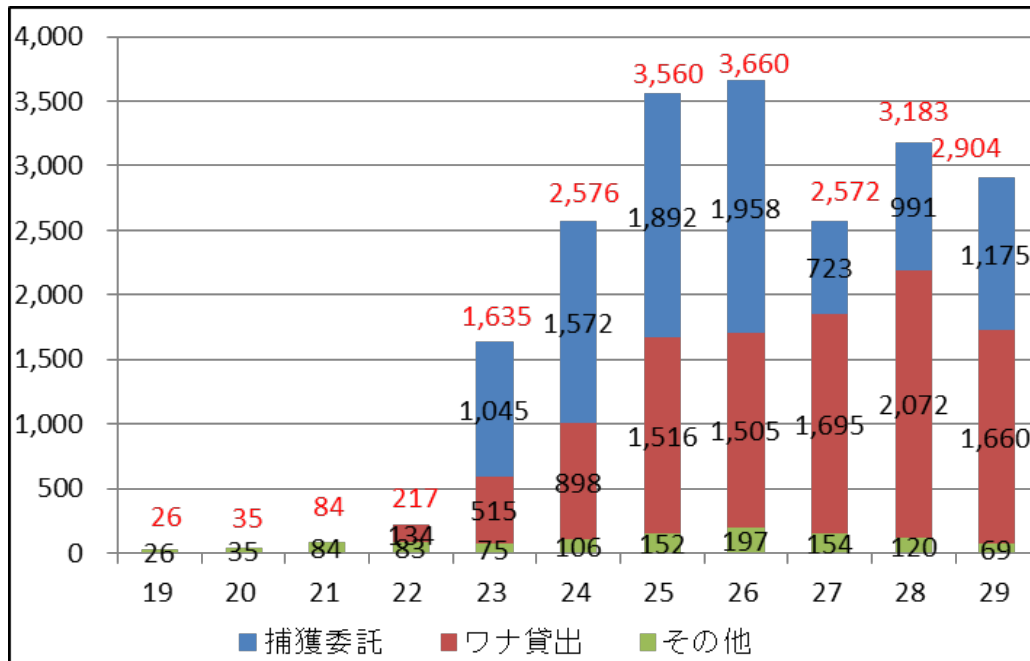


図 3 国有林内ニホンジカ捕獲頭数(長野県内)

4 技術開発担当機関及びお問合せ先等

- ・ 担当機関：中部森林管理局 技術普及課、関係森林管理署
- ・ 共同研究機関：なし
- ・ 実施箇所：北信、東信、中信、南信、木曾、南木曾、富山、飛騨、岐阜、東濃、愛知の各森林管理署等
- ・ 開発期間：平成 27 年度～平成 29 年度
- ・ お問合せ先：中部森林管理局 技術普及課、ダイヤルイン（050-3160-6548）

5 参考情報

【中部森林管理局 Web サイト掲載情報】

[平成 29 年度事業概要（重点取り組み事項）\(PDF:1974KB\)](#)、[中部森林管理局における獣害対策の取組（平成 30 年 4 月）\(PDF:1580KB\)](#)